**体育理論「フェアについて考える」①－義足の選手がオリンピックに出場することについて－**

対象：高校生　　　本時の位置：　2時間中の1時間目

授業の目標：オリンピック、パラリンピックとはどのような大会か、それぞれの意義を理解するとともに、今何が問題になっているのかについて知識を深める。パラリンピックとオリンピックの出場資格について考えることを通して、「フェア」について考えられるようになる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 段階 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
| 10分 | 導入 | 発問オリンピックやパラリンピックとは、どのような大会でしょう。パラリンピックにはどんな人が出場することができるのでしょうか。説明パラリンピック大会の概要、発展の歴史**オリンピック**：1896年第1回大会開催。4年に一度開かれるスポーツの祭典、夏季と冬季がある。国際オリンピック委員会（IOC）が主催。リオでは28競技が行われた。**パラリンピック**：第2次世界大戦で負傷した兵士たちのリハビリとしてスポーツを用いたのが始まり。1948年第1回ストーク・マンデビル競技会。 | 隣の人と相談し、ワークシートに記入する。何人かに発表させ、発言の内容を板書する。資料を参照しながら、簡潔に概要と大会の発展を説明する。資料参照：オリンピック・パラリンピックについて |
| 15分 | 展開① | 発問近年、義足の選手が障害のないトップアスリートに近い記録を出すことが可能になってきました。オリンピックに義足の選手が出場できるでしょうか。説明義足の選手のオリンピック出場について・オスカー・ピストリウス（南アフリカ）・2008年北京大会に出場を希望したが出場できず、スポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴、2012年ロンドン大会で400mと4×400mリレーに出場発問義足の人がオリンピックに出場することには何か問題があるでしょうか。説明マルクス・レーム（ドイツ）の事例・2015年世界のトップレベルに通用する記録（走幅跳8m40）で、障がい者の世界記録を更新。2016年リオオリンピックへの出場を希望したが、「義足が本人に有利に働いていない証拠を示す」を事求められ、出場できなかった。 | 各自で考えさせ、隣の人と情報を交換する。→何人かに当てて発表させる。資料参照：Sports Communi-cations　第10回各自で考えさせ、隣の人（小グループ）で情報を交換する。⇒何人かの生徒にあてて、発表させる。問いかけながら説明を進める。資料参照：マルクス・レーム関連記事 |
| 20分 | 展開② | 発問義足の意味はなにか。義足をつけて競技することは「ズルい」のか？グループワーク義足の選手がオリンピックに出場することについて、賛成、反対の両面から考えてみる。グループで出た意見を発表し、共有する。 | 各自で考えさせ、ワークシートに記入した後、小グループで話し合わせる。→全体に問いかけながら説明を進める。資料参照 |
| 5分 | まとめ | 本時はオリンピックとパラリンピックの違い、「義足の人がオリンピックに出場できるか否か」について学習し、みんなで考えました。みんなで話し合った結果を改めて考えてみましょう。次回は「フェア」について考えます。それまでに自分なりの考えを深めて来てください。 | 授業で学習したことを振り返らせる。次回の授業に興味をつなげる。 |

**体育理論「フェアについて考える」②－パラリンピックのクラス分けと「公平」－**

対象：高校1～2年生　　　本時の位置：　2時間中の2時間目

授業の目標：オリンピック、パラリンピックとはどのような大会か、それぞれの意義を理解するとともに、今何が問題になっているのかについて知識を深める。パラリンピックとオリンピックの出場資格について考えることを通して、「フェア」について考えられるようになる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 段階 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
| 10分 | 導入 | 発問 オリンピックとパラリンピックの違いは何でしょうか。これまで義足の人がオリンピックに参加したことはあったでしょうか。復習 オリンピックとパラリンピックの歴史、発祥について復習。発問 義足の人がオリンピックに出場することについて、問題があるとしたらそれはどんなことでしたか。復習 前回出た意見の復習 | 簡潔に定義、方法を思い出させる。生徒の答えが出てくるよう発言を促す。出場できない理由について生徒の答えが出てくるよう促す。 |
| 10分 | 展開① | 発問 障がいには種類や程度の違いがあります。どんな障害の種類があるでしょうか。まったく同じものはないと言ってよいでしょう。パラリンピックではどのように公平を保っているのでしょうか。説明 クラス分けについて：障がいの種類や程度が、競技結果に影響しないよう同程度の障がいで競技グループを形成することを「クラス分け」と呼んでいます。クラス分けの目的クラス分けはいつから始まったのかどのような種類があるのか―陸上競技を例に説明 | 各自で考えさせ、隣の人と情報を交換する。→ワークシートに障がいの種類を記入させる。→何人かに当てて発表させる。資料参照：クラス分けQ&A（日本パラ陸上競技連盟 クラス分け運営委員会） |
| 15分 | 展開② | 発問 障がいの種類や程度によってクラス分けがあり、それによって「公平」を保っているが、「平等」と「公平」の違いから「公平」とは何か考えてみよう。グループワークパラリンピックには「クラス分け」が存在し、障がいの種類や程度に応じて、「公平に」競うために設けられているものだが、義足をつけることで公平性が保たれるとしたら、義足の選手がオリンピックに出てもよいのではないか。何が問題か。 | 展開②に続いて話し合わせる。クラス分けについては必要に応じて情報を提供する。参考資料：平等と公平全体に対して問いかけ、いくつかの意見を発表させる。 |
| 10分 | 応用 | 発問 義足や車いすなど機能を補助する器具が発達することにより、パラリンピックはこれからどうなるのだろうか。そうなった場合、「フェア」や「公平」をどのように考えるべきだろうか。グループワークパラリンピックの将来について考えてみよう。 | あまり時間がないので、グループで意見を出し合わせる。資料参照：【能力主義の陰で】超人化するアスリートたち |
| 5分 | まとめ | 2回にわたって「義足の人がオリンピックに出場できるか否か」を通して、「フェアとは何か」について学習しました。各自で改めて考えてみましょう。正解や一つの答えに集約するよりも、みなさんが正しい知識を持ち、これからどうすればよいか、考えることが重要です。 | 授業で学習したことを振り返らせる。今後に興味をつなげる。 |